

## Epidemiological Update of Methylmercury and Minamata Disease

(メチル水銀および水俣病の最近の疫学研究成果)

Noriyuki Hachiya

(蜂谷紀之)

書名 : Methylmercury and Neurotoxicity

Current Topics in Neurotoxicity Volume 2, 2012 年, 1-11 頁

(メチル水銀と神経毒性—神経毒性学の最新の成果, 第 2 巻)

編者 : Sandra Ceccatelli および Michael Aschner

出版社 : Springer,

水俣病および水俣病発生地区におけるメチル水銀の健康影響に関する疫学的研究については日本語の文献・資料が多いため、あらためてそれらの概要を解説するとともに、1990 年代以降に発表された文献による最近までの疫学研究の進展を紹介した。

水俣病患者は水俣およびその周辺で主に 1950 年代中頃から 1970 年代中頃にかけて発生したほか、1960 年代には第二水俣病が新潟県阿賀野川流域で発生した。過去にメチル水銀汚染のあった地域の住民を対象にその健康影響を調べるための疫学研究を後から実施することは困難な問題が存在する。それは、メチル水銀の生物学的半減期が約 50~70 日と比較的短いため、住民の過去の曝露レベルを評価することが難しいためである。1960 年代初めに得られた一部住民の毛髪水銀測定結果や、地域別などの集団ごとに異なると推定される曝露状況、あるいは保存臍帯についてのメチル水銀濃度を利用した研究が行われている。メチル水銀の慢性曝露による影響を検討する上では自覚症状を検討することも重要である。しかしながら、このような訴えは被害の補償ともリンクするため、診断バイアスや選択バイアスなどについても十分に考慮しなければならない。このような困難な限界はあるが、最近の疫学的研究によると、さまざまな非特異的症状を含む健康影響とメチル水銀曝露との関係が明らかにされてきている。

内容 :

緒言

水俣病の歴史的概要

曝露評価および健康影響に関する初期の研究

胎児性水俣病と胎児期曝露

長期曝露と慢性影響

結論

文献